

令和3年度 第1回三島市文化振興審議会 会議録

1 開催日時

令和3年12月23日（木）午後1時30分～午後3時10分

2 開催場所

三島市役所大社町別館 1階 防災研修室

3 出席者

(1) 委員…9人／12人中

平野雅彦委員、宮西達也委員、橋本敬之委員、靱山好実委員、芹澤博一委員、井島真知委員、杉山朋子委員、坪井則子委員 坂田芳乃委員

（欠席：岩下晶子委員、橋本由紀子委員、室伏学委員）

(2) 事務局…4名

西川産業文化部長、鈴木文化振興課長、木村文化振興課主幹、中島主査

4 会議の公開・非公開 公開

5 傍聴人の人数 0人

【議事録要旨】

1 委嘱状交付

新任委員芹澤博一氏に対し、産業文化部長から委嘱状を交付

2 産業文化部長挨拶

3 議事

—これより会長による議事進行—

(1) 三島市文化振興基本計画の進捗状況について

(2) 令和3年度文化振興事業について

資料(1～15 ページ)に基づき事務局(木村主幹)から説明があった後、次のような意見交換及び質疑応答がされた。

委員：新型コロナウイルス感染症の状況が変化しそうな状況であり、文化芸術に悪い影響がないことを願っている。三島市で行われている文化事業については、民間も含めて様々な活動があると見聞きしていて、地に足がついた活動をしていると感じているところである。

委員：資料の文化振興基本計画の数値目標、成果指標の中間評価で「子どもの文化

芸術体験の充実が重要と考える人の割合」が平成 25 年度は 41.1%令和 2 年度は 30.3%であり、意識調査の数値が低くなったことに対して分析や他市との比較はしているか、これを受けて今後の施策展開をどうしていくべきか事務局として考えているか。

事務局：事務局としても数値が低くて驚いたが分析はできておらず、他市との比較もしていないのが現状である。調査対象数が平成 25 年度は 1,000、令和 2 年度は 2,000 で実際に回答があった標本数に大きな違いがあり単純比較はできない状況である。

委員：文化芸術に関する事業を実施していけば、当然この数値は上がると思うのだが、低くなった理由を知りたい。

委員：他市に住んでいるが、三島市の文化に関する事業展開を見ていると居住地の事業と比べ非常にうらやましい。意識調査の設問の設定にもよるが、事業に満足していればこの数値は下がる可能性もあるので、経年比較ができなくなってしまうが、設問の設定自体を検討する必要がある。

委員：この調査は「文化芸術」としているが、「文化芸術」というと構えてしまう人が多いのではないか。意識調査に「文化芸術」について明示しているか。「文化芸術」はハードルが高いと感じている人が多く、お稽古ごとを含むなどすればよいのでは。

事務局：調査票の最初に「文化芸術」の定義を明示している。

委員：映像やアニメーションなどのメディア芸術について説明しているか。

事務局：文化芸術基本法に例示されているものを説明しているため、メディア芸術についても説明している。

委員：文化振興基本条例を検討する中で、「文化芸術」とすると「芸術」という言葉から、非常に狭い概念となってしまうので、「文化」として、幅広く扱うこととした経緯がある。意識調査の設問をわかりやすくする必要があると思う。

委員：子どもに対して何が重要か考えると、親としては「勉強」などもっと重要と考えることがある。また、「日常生活の中で文化が重要と考えている人の割合」こちらは大人などすべての人を対象としており 90%を超えているので、子どもの数値が低いことにこだわる必要はないのではないか。

委員：小学校では、図工、音楽が文化芸術に相当する部分であり、多くの子どもたちが図工、音楽は楽しいと言っている。図工や音楽など身近なところに視点をあてることができれば、「子どもの文化芸術体験の充実が重要と考える人の割合」の数値も上がってくるのではないか。

委員：大人が文化を楽しむので子どもも文化を楽しむことができる。親が楽しむこ

とができれば、子どもの文化は大丈夫だと思う。

事務局：「子どもの文化芸術体験の充実が重要と考える人の割合」については他と比較して重要度を聞いており、「ふつう」「わからない」と回答している人が多くなっている。今後、設問について文言と聞き方の整理をしていきたい。

(3) 市民文化会館について

資料(22 ページ)に基づき事務局(木村主幹)から説明があった後、次のような意見交換がされた。

委員：市民文化会館は大規模改修を行いトイレが洋式となり、空調も換気機能が向上し、利用者から評判が良い。市民文化会館の自主文化事業については、新型コロナウイルス感染症の影響で、利用率は良くなってもチケットの売り上げが戻ってこないということだが、団体事業のチケット売上も同じように、コロナ前はすぐに完売だったものも、席数を制限してやっと完売になったという状況である。

委員：コロナ禍でオンラインでの舞台公演の配信なども多く行われたが、生（ライブ）にはかなわないと多くの人を実感したのではないか。文化会館の事業を広く考えるということで、ストリートミュージック実証実験の結果などにより、新たな利用方法を提案できるとよい。

(4) その他

その他として、新型コロナウイルス感染症の影響下での文化芸術活動、相談事業について意見交換がなされた。

委員：「アートコンシェルジュデスク（アートのよろず相談所）」を始めたところである。（公財）静岡文化財団の相談に関わっていたが、中部地域に住んでいる人がほとんどである。西部地域には「はままつアーツ&クリエイション」（浜松版アーツカウンシル）に相談できるが、東部地域にはないので団体として始めた。アーティスト等から作品の発表の場がほしい、助成金についてなどの相談が月に3～4件ある。ニーズとシーズを一致させることができると考えており、地域に貢献ができる「アートのよろず相談」としたい。

委員：（公財）静岡県文化財団で6年弱「ふじのくに文化情報センター」でアーティスト、デザイナーの相談を受けた。情報がほしい、活動を聞いてほしいなどであり、同じ人の相談を7回受けたこともある。相談者は悩みを持っており、メールでの相談をメールで返すだけでなく、対面で時間をとって話を聞くことが必要。市が始める「文化活動に関する相談窓口」も専門性の高い相談窓口に紹

介するだけでなく、他の部署に異動しても無駄になることはないので、相談に対応できるよう市職員も文化活動に関する知識を学んでほしい。

委員：美術館、博物館、ホールでの公演に行くことだけが文化でなく、スポーツも文化であるし、人の生活すべてが文化であると思うようにしたいと考えている。佐野美術館の「宮西達也の世界ミラクルワールド絵本展」が終了したところで、非常に多くの人々が来館された。絵本は非常に長いスパン関わるものであり、子どものころ宮西さんの絵本を読んだ人が、父、母になって子どもとともに来館されている。

また、新型コロナウイルス感染症拡大防止の方針が地域によって大きく違い、三島市や静岡県は文化関係については継続する方針であったが、企画展の準備をしたのに、県の方針で中止となってしまった美術館もあった。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止してしまうのは簡単だが、行う方法を考えたい。

委員：学校現場でも、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためと簡単に中止にしてしまうのではなく、できることを模索して行っている。オンライン授業を始めたり、運動会を半日にしたり、修学旅行の時期をずらすなど方法を変えて行っている。

委員：カルチャーセンターにおいても、なんとか続けたいと細々とでも続けた講座は、感染状況が落ち着けば休んでいた受講生が戻ってきている。休んだ講座は受講生が戻ってこない。続けることが重要。

委員：福島県立博物館の調査等に関わっているが、東日本大震災、新型コロナウイルス感染症の影響などで小さな村の「お祭り」が中止となっている。「お祭り」を高齢者が担っているので、開催できる状況となったときに「再起動」ができなくなってしまっている。「お祭り」は伝統食などもあり、伝統的な文化が消えてしまう。「続ける」方策を考えていきたい。

委員：三島市に TATSU'S ギャラリーをオープンし、学校等で読み聞かせを行っており、三島市を「絵本のまち」にしたいと考えている。剣淵町（北海道）、有田川町（和歌山県）、袋井市の絵本のコンクールに関わっているが、三島市でもぜひ絵本のコンクールを開くなどを行うことを提案したい。

委員：大学の研究室に絵本を備え付けてある。専門書を学生が手に取ることはほとんどないが、絵本は手に取って読んでくれるので、会話が始まる。絵本は子どもだけのものではなく、人を引き付ける力がある。三島市が絵本のまちとして特化していくこともできるのではないか。

4 閉会